

研推だよりNo.19



令和4年
10月7日
研究推進部会

松田先生、話題提案授業ありがとうございました！



先週金曜日は指導室訪問お疲れさまでした。水曜日の小中連携もあって、ばたばたした1週間だったかと思います。指導室の先生方がいらっしゃる時間はわずかだったと思いますが、その後いただいたメモなど教えていただいたことをさらに授業に生かしていきたいですね！

さて、午後の校内研では、3年生の松田先生が授業をしてくださいました。夏休み前に急遽決まり、準備する時間も限られている中でしたが、教材研究や指導案作成など早くから準備に取り掛かってくださったおかげで、参観した私たちもたくさん学ばせていただいた授業だったかと思います。とりわけ私などは、昨年度に受けもった子達でしたので、授業の内容以外の部分でも学習に臨む態度や取り組みの様子の成長にとっても驚きました。課題のある子も多い学年ではありますが、当日の授業ではどの子も零れ落ちることなく全員がしっかりと学習に向き合っていました。あそこまで子供たちを引き上げてくださった松田先生には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、本時の続きの学習の様子として、子供たちが自分で漢字の「へん」「つくり」に着目して漢字を調べ、問題を作っていた、という報告も先生からいただきました。（写真を4ページ目に載せておきます）当日の授業がしっかりと子供たちの頭と心にのこり、その後の学習も主体的に取り組む姿につながっていったことの表れだと実感しました。今後も学校全体でそういった実践をみんなで目指していきたいですね！

今回の授業のように、松田先生のような経験豊富な方が、こうして校内研でチャレンジングな実践に取り組んでくださることの価値を実感し、心からありがたく思いました。また、それが実現される本校の良さも感じ取ることができました。今後もみんなでよりよい実践を目指していく本校の良さを、さらに伸ばしていけたらと思います。松田先生、本当にありがとうございました！

1 第4回話題提案授業 協議および指導講評記録（記録：研究推進部）

授業者自評（松田先生）

- ①ICTの活用はもちろん、国語の授業としてどうであったか。全員が集中できるように、子供たちと掛け合いをして、刺激を与えながら授業をしている。ICTスキルを、いかに單元の中で授業に取り組むかを工夫している。9月に入ってから授業でタブレットを使うようにしてきた。ローマ字入力もできるようになってきている。
- ②本時の学習は、本来漢字のつくりカードを使って学習することが定番であった。しかし、タブレットで漢字のつくりを自由に動かせるようにした。しかし、もっと工夫をできたと考えている。

グルーピングして見やすく並べたが、どうであったか。目標達成までいけたか。後半、へんの意味や名前を習得してから進んだ方がよかったのか。

- ③子供たちは本時の内容を分かっていたので、難易度を上げるか、出し方を工夫すればよかった。パズル的にしたことで、学力の低い子も理解できるようにさせたかった。漢字が苦手な子が多いので、楽しく活動させたかった。どのレベルの子をターゲットにして授業を行うかを考えなくてはならない。個別最適な学びを意識して個に執着しすぎると、AI に任せることになってしまうのではないか。タブレットは、授業の一部として使ってみた。

研究協議①各グループより

成果	質問・改善案
<p>①自力解決を楽しそうに活動していた。</p> <p>②苦手児童をもつ児童にとってもよかった、</p> <p>③漢字の「へん」を固定しなかったことで、よいところもあった。</p> <p>④個に応じた配慮ができていた。</p> <p>⑤タブレットを使いながら、一人一人思考力を深めていた。</p> <p>⑥児童が何をしているか把握できていてよい。また、児童同士の考えが全体で共有できていてよい。</p> <p>⑦ワークシートがよい。</p> <p>⑧導入がよい。</p> <p>⑨遊びの要素もあって、タブレットがよい脇役になっていた。</p> <p>⑩苦手な子も関心が持っていた。</p>	<p>①実際にノートに書く時間もあるとよかった。</p> <p>②タブレット指導の頻度や具体的な指導法は？→今後の夕会や研究全体会で周知。</p> <p>③課題に取り組む時間の確保ができていればよかった。</p> <p>④比較するのは画面上では難しい。</p> <p>⑤ノートとタブレットを両方使うのは難しいのか。</p> <p>⑥「へん」を固定できないなら、線を一本入れると工夫できたのでは。</p>



②グループ協議のまとめ

- ・ICT のよさとは、①煩雑さの解消により思考が深まる、②共有ができるということが見えてきた。
- ・個別最適な学びの実現に向け、内容と時間配分、教師の役割を明確にする。
- ・ノートとタブレットの使い方を本校独自のものの確立へ。
- ・児童が、タブレットは調べる道具だけではなく、共有するためのツールとして教師側も児童自身も感じられるようにしていきたい。

指導・講評（講師：東久留米市教育委員会 指導主事 菊池 佑介先生）

「個別最適な学びと協働的な学びの効率的な取組の在り方」

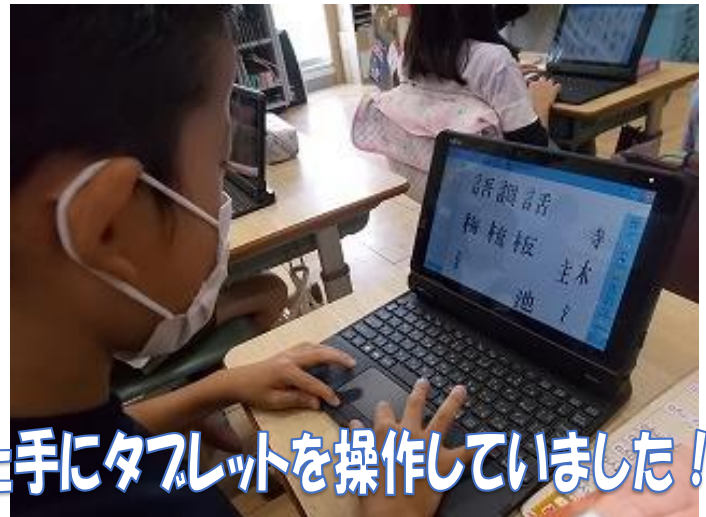
①本日の授業について

- ・国語科の授業として目標、ICT の推進を二つのめあてを達成しようとしていた。
- ・作成したワークシートだけで、子供たちが自然に主体的に思考していた。
- ・へんやつくりで仲間分けをして、どんな理由で仲間分けをしたのかを考えさせることで思考力が育つのではないか。

- ・ゲーム的なもの、思考するもので切り替えさせるように。
- ・ノートとタブレットの行き来はストレスがある。めあてに応じて、タブレットだけでもよかったのではないかな。

②個別最適な学びについて

- ・個別最適な学びとは、全ての子供たちの可能性を引き出すもの。
- ・学習者視点→その子供の立場に立って指導の在り方を考えていく
- ・できる子にはもっと難易度の高いものを、低い子にはヒントカードがあるものを。
- ・指導の個別化に向けた具体的な取組
算数の少人数指導、タブレットで自宅でまとめること、eライブラリ etc
- ・アンケートアプリにより、学習の個性化を図る。
- ・子供たちの学習状況を踏まえて、子供が自分自身で計画できるように育てる。
- ・まとめを子供のことばで 教師が自分の言葉でやるのは×、子供同士の言葉でまとめを。
- ・ICTの効果的な活用は、蓄積もある。蓄積することで学びの達成感へ。軌跡を残す。
- ・協働的な学びとは、個別最適な学びが孤立した学びにならないように。
- ・ICT活用は、タブレットありきではなく、教科の目標達成を忘れずに。



3年生でも思考を働かせながら、上手にタブレットを操作していました！



松田先生、お忙しいところ本当にありがとうございました！



先生方も短い時間での協議に御協力いただきありがとうございました！



実践も進んで、そろそろ研究の中身を固めていきたいと思います。
今後ともご協力よろしくお願いします！

授業の後、子供たちが自主的に作った問題です↓(松田先生より)

わたしが作ったもんだい

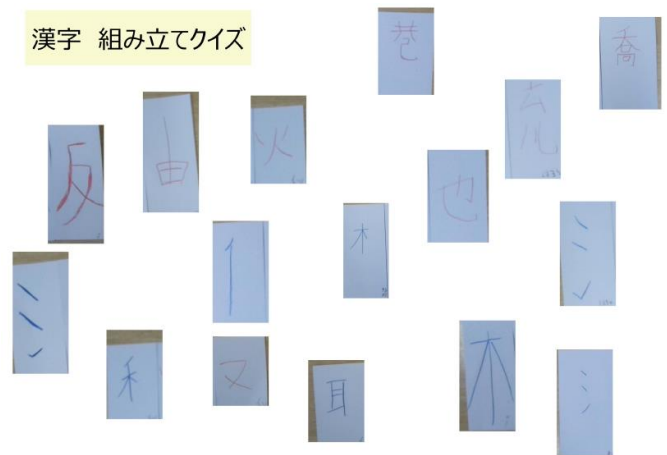


漢字 組み立てクイズ

分 秒 ママ

分 秒 パパ

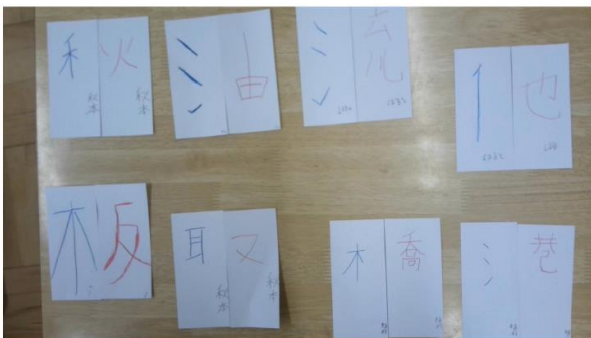
ママ ・ パパ
の、勝ち



お家の人に出す問題を作ったようですね！

答え

わたしが作ったもんだい



本時の学習がしっかりと子供たちの心と頭にのこっていることの表れですね！素晴らしいですね！